

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102568		
法人名	医療法人 田北クリニック		
事業所名	グループホームあみ 1階		
所在地	奈良市二条町二丁目3-18		
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2970102568-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット		
所在地	奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和4年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近鉄西大寺駅より徒歩8分、平城旧跡に隣接という立地条件に恵まれ、毎朝の散歩コースとなっています。オーナーが地球環境に関心深く、未来のためのエコロジーハウス(太陽光発電、太陽光温水器)です。食材にもこだわり、利用者様の体に優しいオーガニックな食材を用いた家庭的なお料理を提供しています。施設名になっている「あみ」というのは、「私」でも「あなた」でもあり、「みんな繋がっている」という意味で、みんな楽しく愛あふれたホームを目指し、ご本人らしさを大切にケアを行っています。医療法人であるので24時間体制でクリニックと医療連携をし、医療面・健康面でも安心していきます。同系列にかふえがあり、気軽に出かけ、地域社会とふれあい、楽しみを持てる場となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近鉄西大寺駅から徒歩8分の閑静な住宅街にあり、近くには広い平城宮跡や近鉄百貨店が入る大きなショッピングセンターがあり、とても恵まれた環境にある。建物は鉄骨4階建てで、3ユニットのグループホームである。医療法人が運営し、理事長(医師)による医療面のサポートがある。利用者の生活習慣、趣味趣向、得意なことを大切に、利用者本位のサポートを行っている。オーガニックな食事にもこだわっている。職員全員で事業所の理念を共有し、プロとしてのサービス提供を意識し、全ての人が幸せに笑顔になれるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホーム独自の理念(笑顔・笑声・笑心)を玄関前、各フロアに掲示し、「あみしあわせ＝すべての人々の幸せ」を全職員が共有している。また、クレド(信条)を出勤時・会議時唱和し、常に振り返りケアにあたっている。	「利用者の尊厳を大切にし、全ての人々が幸せに」「笑顔・笑声・笑心」の理念と、現場職員が作成した「介護のプロとして利用者を敬い、寄り添い、支え、向上心を持って成長する」という信条を毎朝と会議時に唱和している。理念を共有し、利用者、家族、職員、みんなの幸せの実現に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様との散歩時や職員の出勤・退勤の挨拶を通じて近隣の方とふれあい、自治会のお月見会に参加しアトラクションを当ホーム担当している。	自治会の回覧は来ないが、散歩時に掲示板を見ている。広報は各フロアに置き見てもらっている。ほとんど毎日、近隣へ散歩にでかけており、犬と一緒に行かれる方もいる。自治会の行事にコロナ禍前は参加していたが、現在は行事自体が中止になっている。清掃活動は、元気な利用者と一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での清掃活動に積極的に参加。自治会のお月見会のアトラクションを担当している。認知症の方に関わる相談にも、応じている。24年オープンのおみかふえが地域のコミュニティとなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則として、奇数月の第二月曜日または土曜日に開催している。家族会ともなっており、家族の意向や地域の方の、包括支援センターの意見を取り入れ、より良いケアの実践に活かしている。	運営推進会議は、コロナ禍でこの1年に3回、家族、地域包括支援センター職員、自治会長、消防署職員(1回のみ)が参加して実施した。利用者の状況と面会方法が主なテーマとなった。面会はリモートで行っており、写真や動画も送ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	奈良市主催の研修会に参加している。介護福祉課の方に相談に乗っていただき、アドバイスを受けている。運営推進会議にも参加していただいたり、議事録を見ていただいている。	事故報告や困難事例の相談報告、介護保険更新手続き、運営推進会議議事録の提出などで市の担当課に出向くとともに、分からないことを聴いている。また、地域包括支援センター主催の研修会やケア会議に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社員研修を開催し、ケア会議で話し合い、拘束の弊害について共通認識を深め、身体拘束防止に取り組み、細心の注意を払いケアしている。やむなく行う時は、家族の同意を得て、記録して月一回は、代替え案はないか見直している。	身体拘束について、家族への説明書や経過記録は完備し、必要性や代案を検討する会議を招集することになっているが、現在その事例はない。社員研修や外部研修などの学ぶ機会を多く設けており、身体拘束についても学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きていないか常に利用者の心身の状態の把握を行い、スタッフの言動や行動にも注意を払っている。社員研修を開催し、フロア会議でも話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会に参加している。利用者に成年後見制度を利用されている方もおられた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約を2時間ほどかけて説明し、納得していただいた上で印鑑をおしてもらっている。退去時は、家族と話し合いをかねて納得していただき次の施設や入居先の確保を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議時に意見や要望を伺い、記録を残し、謙虚に受け止め対応している。ご意見と対応は記録に残し、職員も会議で共有し改善している。	コロナ禍で面会制限があったり家族が訪問する機会が減ったりして、家族とのコミュニケーションが不十分な状況が続いている。電話やメッセージアプリも使い、利用者の状況を伝えると共に、家族の意見を聴いている。家族からは、面会方法やワクチンのことに対する質問が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロアミーティングを行い、代表や管理者も参加し、スタッフとの意見交換を行っている。また、個人面談をし、意見を聞いている。	管理者は、常に意見が言いやすい職場づくりを心掛けている。大切なことは月1回の会議で話し合っており、勤務時間変更、マニュアルの整備、研修など、色々な意見が出されている。管理者は、年2回職員の個人面談を行い、意見や要望を聴いている。ビジネスチャットを導入することにより、職員同士の交流が増え、チームワークの醸成につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月一回のコアミーティングを行い、フロアの状況把握と意思疎通に努めている。面談も行い職員に思いを聞き、より良いコミュニケーションを図るよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、パートに関わらず、各種研修に参加したり、法人内での勉強会を開くなどスキルアップに努めている。参考書や模擬テストを購入して配布するなど、資格取得を応援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームや施設を相互訪問したり、研修を通じてネットワークを作っている。認知症フレンドシップクラブにも参加し、RUN伴マラソンにも参加した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談をして本人の話を傾聴し思いを受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていることをや不安なこと、大切にしていること等を傾聴し、思いを受け止めて一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の時にゆっくりと話を聴き本人とご家族様により支援について援助をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の生活を大事にしてその人らしい生活を出来るようにお手伝いしている。料理等得意な事を一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望を聞いたり生活状況を話している。毎月手紙を送って様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為 状況に応じて月に何度かきていただいている。	面会は、感染状況を鑑み、理事長(医師)の判断で、玄関で行っている。新規入居や終末期の方には出来るだけ面会をしてもらうようもしている。毎月、請求書と共に写真を添えた手紙を送付している。近隣の美容室が馴染みになっている方もおられる。調理、包丁研ぎ、大工仕事、園芸、マッサージ、保育経験、犬の散歩など関心、得意、経験などを継続してもらう場作りを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士がトラブルにならないように配慮して間に入り関係性をつなげるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のその後の状況を面会に行き確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、希望や不安等を聞くようにしている。表情や言動等へ思いや意向に近づくようにしている。	ホームで作成した「生活歴シート」に生活習慣、趣味趣向、望み、1日の暮らし方を家族に記入してもらい、その人らしさの把握に努めている。入居後に把握できることも付け加えていき、書面を見ればその方の思いや意向を深く理解できるよう工夫されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から詳しくお聞きしたり、または生活歴をいただいている。会話や行動等からも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、状況を把握して穏やかに生活できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の会議で、ご本人様、ご家族様や関係者等の意見や問題点を話し合っている。	入居後3ヶ月で介護計画更新し、その後は半年ごとにモニタリング結果をまとめ、介護計画を更新している。介護計画原案を家族に示し、説明し意向を伺い作成している。疾患、日常生活動作だけでなく、生活習慣や楽しみ、役割など多くの内容が記されていて、その人らしい個別的、具体的な内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録には体調・言動・ご利用者様同志の関係等を記録している。朝・夕の申しおくりで情報を共有し、計画書の見直しの参考としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ドライブや平城旧跡に散歩している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部からのレクリエーション等は、コロナ禍の為に中止している。フロアでお誕生日会やカラオケ等をして楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により今までの病院を受診されている。理事長が、クリニックの院長であり月2回訪問診療で健康管理している。異常があれば、院長に報告して指示を受けている。	内科医である法人理事長が、月2回訪問診療を行っており、24時間365日電話対応し、看取り時も往診している。他医をかかりつけ医として選ぶこともでき、往診でも外来受診でも認めている。皮膚科医や歯科医の訪問もある。他科へ外来受診している方もいる。看護師も勤務し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が訪問看護を受けている。相談報告して協力しながら健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携の病院があり、受け入れをしてもらっている。入院先との連携を取り病状の把握とリハビリ状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に家族と重度化や終末期について話し合っている。医師と相談しながら状態悪化の際には入院していただき、良くなれば施設での生活をしていただく。	入居時に、看取りについて説明し、消防署の指導もあり、終末期の要望確認書を作成している。時が来ると再度意向を確認している。この1年で、各フロア2名、6名の方を看取った。看取り時、経過観察記録を作成している。看取り後、各フロアで、振り返りの話し合いを必ず行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成して、管理者・医師・代表と連携が取れるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、年2回避難訓練をしている。	消防計画を作成。原則年2回避難訓練を行い、内訳は火災1回、地震1回、昼間と夜間想定して実施している。コロナ禍、利用者と一緒にすることは難しいと消防署より指導を受けている。各フロアに通報要領があるが、職員への連絡方法の記載なく緊急時の手順が明瞭とは言えない。備蓄、水はあるが食料は置いていない。昨年9月に研修も実施した。	万一火災などが起これば、特に夜勤帯は職員が慌てる事態になるかもしれない。一目で分かる緊急時手順マニュアルの作成と周知、備蓄も、介護施設にもBCP策定を求められるようになってくることを考えれば、最低限のものを少しずつでも準備することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は人格を尊重し、その方にあった言葉かけを心掛けている。	利用者の尊厳を守り、その方の生き方を大切に、その方らしい人生をサポートすることを理念としており、言葉遣いに気を付け、通じやすい言葉、心に響く言葉を意識している。スピーチロックもないよう留意している。また、「～しましょう」でなく、利用者のやりたいことを引き出す努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人にあったお声掛けをして気持ちや希望をお聞きすることを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事等をご利用者様のペースに合わせている。レクリエーション等がある時は説明して希望を聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍の為スタッフが、カットさせて頂いたり 近隣の美容室を利用している。入浴時服を選んで頂いたり 便汚染の時は、いつでも入って頂けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と一緒に食事を作ったり盛り付け、配膳、後片付けをしている。メニューのお話をして音や匂いを感じていただき、楽しみにしていただいている。	献立は利用者の希望も参考に栄養士が考え、オーガニックの食材と調味料を使い近くのカフェで作っている。ご飯と汁物はホームで作っている。コロナ前はカフェでバイキングをしたり、散歩時に喫茶したりしていた。今はひな祭りや花見、敬老の日や誕生日会などイベント時に、お弁当やケーキを作ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士によるカロリーや摂取量を管理している。一人一人に合わせた種類や状態にして摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしている。訪問歯科診療を受診して口腔状態を見ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく布パンツを使用して排泄パターンや習慣を把握してトイレでの排泄を支援している。	入居者25名の内、布パンツ使用の方が15名、リハビリパンツの方が7名、おむつの方が3名おられる。排泄パターンを把握して、全ての方が昼間はトイレに座って排泄できるように支援し、排泄の自立度の維持向上に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による影響を理解して 散歩や運動オリゴ糖やにがり水分補給して頂いている。なるべく自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴されるかは、希望をお聞きしている。失禁や汚染時はいつでも入浴していただいている。	毎日入浴の準備をして、原則利用者1人当たり週3日入浴ができるよう支援している。褥瘡のある方は毎日入ってもらい、失禁時にはすぐにシャワーで対応している。時間は午前9時半から午後7時半で、好みの時間に対応している。首湯やゆず湯をして季節を感じている。個浴で会話を楽しみながらリラックスして入ってもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に居室に戻られ、休息したり横になれるように安心していただいている。昼夜逆転にならないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬を理解して、スタッフ同志で確認し確実に服用している。服用後の様子観察も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を聞いたり会話の中から嗜好品や趣味を把握して生き生きとした生活出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩を楽しんで頂いている。犬の散歩やドライブに行くこともある。	コロナ禍でも、ほとんど毎日、近隣の散歩に出かけている。道をはさんで東側に平城宮跡があり環境も良い。たまにはカフェに出かけたり、車でドライブにも行くこともある。コロナ禍前は、すぐ近くにある近鉄百貨店へよく出掛けていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様・ご本人様の希望により少額を自己管理している。買い物に行き自身で支払いされることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればあみの電話でかけている。はがきを出したり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや窓で採光や室温に配慮している。床の水こぼれや食べこぼし等を常に清掃している。ご利用者様と共に季節に合わせた飾り付けをしている。	リビングキッチンが東西両方向に大きな掃き出し窓があり、明るく開放的で、西側にはテラスデッキもある。窓には季節感を感じられるちぎり絵が貼られている。全ての方に心地よい居場所として、和やかに過ごして頂けるよう心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いて気の合ったご利用者様同士でくつろいで頂いている。他のフロアにスタッフと共に行き利用者様同士で交流出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を置いたり写真や置物を置いて好みの居室づくりをしている。	居室内には、作り付けのタンス、エアコン、カーテンが用意されている。カーテンも防災であれば、好みのものに変えることができる。利用者は、思い入れがあるベットや布団、家具などものを持ち込み、自分らしい居室の演出ができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴槽に手すりをつけたり、目印をつけている。家具の配置等で環境整備をして安全で自立できるような声掛けをしている。		